

西彼保健所感染症情報

令和7年 第 30 週 令和7年7月21日 ～ 令和7年7月27日

全数把握対象感染症 発生状況

※報告日週掲載 (県作成速報：診断日週掲載)

一類感染症	報告なし
二類感染症	報告なし
三類感染症	報告なし
四類感染症	報告なし
五類感染症	【第30週】百日咳 患者1名 (10代・女性)

定点把握の対象となる5類感染症発生状況 (定点医療機関当たり患者数) ↑;前週より増加 ↑↑;2週連続増加 ↑↑↑;急増

疾病名	週別 発生状況		基準値			疾病名	週別 発生状況		基準値				
			警報レベル		注意 報レ ベル				警報レベル		注意 報レ ベル		
	29 週	30 週	開始	終息			29 週	30 週	開始	終息			
インフルエンザ定点	0.00	0.00	30	10	10	突発性発しん	0.33	↑	1.00	↑↑↑			
COVID-19	3.60	↑	3.00			ヘルパンギーナ	1.67	↑	0.67		6	2	
急性呼吸器感染症（ARI）	74.00	↑	70.80			流行性耳下腺炎	0.33		0.00		6	2	3
R Sウイルス感染症	0.33		0.67	↑		急性出血性結膜炎	0.00		0.00		1	0.1	
咽頭結膜熱	0.33		1.33	↑		流行性角結膜炎	0.00		0.00		8	4	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5.33	↑↑	2.67			細菌性髄膜炎	0.00		0.00				
感染性胃腸炎	7.33		6.67			無菌性髄膜炎	0.00		0.00				
水痘	0.67		0.00			マイコプラズマ肺炎	0.00		0.00				
手足口病	0.00		0.33			クラミジア肺炎	0.00		0.00				
伝染性紅斑（リンゴ病）	2.00	警報	1.00			感染性胃腸炎（ロタウイルス）	0.00		0.00				

トピックス・季節情報

8月4日は、はしか予防の日です



国立感染症研究所では「8月4日を、はしか予防の日」と定めて、予防啓発をすすめています。

日本は2015年3月27日に、世界保健機関(WHO)から麻しん(はしか)の排除が認定されました。しかし、海外には麻しんが流行している国がまだ多く残っており、渡航先で感染し、帰国後に発症する人が相次いでいます。

麻しんは感染力が強く、空気感染もするので、手洗い、マスクのみで予防はできません。

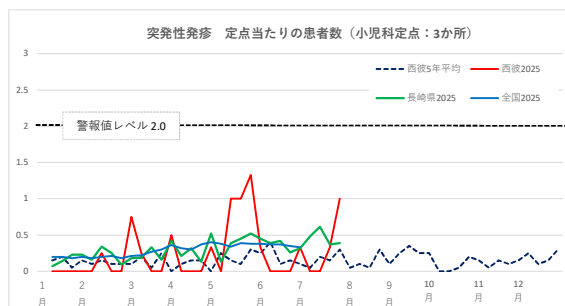
麻しんの予防接種が最も有効な予防法といえます。また、麻しんの患者に接触した場合、72時間以内に麻しんワクチンの接種をすることで、麻しんの発症を予防できる可能性があります。接触後5、6日以内であれば、γグロブリンの注射で発症を抑えることができる可能性があります。妊婦等の免疫抑制状態にある者などで、接種不適応者に対して投与が行われます。詳しくは、かかりつけの医師とご相談ください。

海外旅行を計画している方で、これまで麻しんにかかったことが明らかでなく、麻しんのワクチンを2回接種していない方は、渡航前に麻しん風しん混合ワクチン(MRワクチン)の接種を検討してください。

突発性発しんが急増しています

突発性発しんとは、乳児期に罹患することが多く、突然の高熱と解熱前後の発疹を特徴とするウイルス感染症です。

5歳以上はまれで、2～3歳頃までにほとんどの小児が抗体陽性となります。初感染時の潜伏期は、約10日と推定されています。予後は一般的に良好ですが、稀に熱性けいれん、脳炎等をはじめとする中枢神経合併症を併発したり、劇症肝炎、血小板減少性紫斑病など重篤な合併症をおこすことがあります。



主要な感染経路は既感染成人からの水平感染と考えられており、唾液や鼻汁中に排泄されたウイルスが経口的あるいは経気道(飛沫)的に感染すると考えられています。

特別な予防法や予防接種はありませんので一般的な感染症対策(タオルの共用等を避ける、手指衛生の励行、マスクの着用等)を行いましょう。